



Title	A Study on the Spatial Linkage in Urban Settlement as an Alternative Tool for Improving Living Environment in the Cities of Java
Author(s)	Tarcisius, Yoyok Wahyu Subroto
Citation	大阪大学, 1996, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/39735
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名	TARCISIUS YOYOK WAHYU SUBROTO タルシシウス ヨヨック ワハユ シブロト
博士の専攻分野の名称	博 士 (工 学)
学 位 記 番 号	第 1 2 5 0 5 号
学 位 授 与 年 月 日	平成 8 年 3 月 25 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第4条第1項該当 工学研究科環境工学専攻
学 位 论 文 名	A Study on the Spatial Linkage in Urban Settlement as an Alternative Tool for Improving Living Environment in the Cities of Java (ジャワ都市における住環境改善の手法としての都市居住地における空間リンクエージに関する研究)
論 文 審 査 委 員	(主査) 教 授 鳴海 邦碩 教 授 東 孝光 教 授 藤田 正憲

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、生活環境改善のための計画的住宅供給が急務とされているインドネシア、ジャワ島都市において、ジャワ型住宅計画、特に集合住宅計画の指針確立のための基礎資料を得ることを目的に、現代ジャワ島の都市居住地にみられる地域固有の空間秩序を生活活動と空間のリンクエージの観点から明らかにすることを通じて、居住者の生活様式を反映した住宅計画の方策を論じたもので、内容は序章および本文7章からなる。

序章では、本研究の意義と目的、および論文の構成、各章の概要について述べている。

第1章では、ジャワの人々の社会観や住居觀について文献研究によって概観し、さらに歴史都市ジョクジャカルタと大都市スラバヤの住環境の実態とその特質を概観することを通じてジャワ島都市における住環境の整備課題を整理・考察し、これらを踏まえて住環境整備の新たな方向を探るための研究の課題、枠組みおよび方法について述べている。

第2章では、慣習的な生活活動と住宅の内外の空間との関連性を明らかにするために、ジョクジャカルタにおける地域固有の居住地と公的な計画による戸建て住宅地を取り上げ、住宅の内外の空間で行われる集まり活動に着目し調査・分析している。

第3章では、上記地区の住宅を取り上げ、住宅内における生活活動の分布実態および居住者の住宅改造意向を調査し、典型的な伝統的住宅との比較を通じて伝統的な間取りの継承と変容について分析し、住宅の室構成における基本的空间の抽出を試みている。

第4章では、上記地区の住宅を対象とし、住宅の内部を構成する各室についてその入口位置から読み取れる連結関係を表から奥に向けて図式化し、これに基づいて接地型住宅の室構成の基本的な構造を分析し、伝統的住宅の内部空間構造が現代の住宅にいかに継承されているかを検証している。

第5章では、スラバヤにおける二つの中層集合住宅団地を対象として、集合住宅における空間ニーズを明らかにする目的で、まず住宅の内部空間の改変および利用の実態を調査・分析し、さらに慣習的な集まり活動に着目し住宅、外部空間および共同施設の利用実態について調査・分析している。

第6章では、上記の集合住宅の居住者を対象とし、住戸の内部空間の基本構造および住戸の内外の空間のリンクエージを明らかにする目的で空間の利用実態に関する聴取調査を行ない、これに基づいて生活活動と空間との連係パターンについて分析している。

第7章では、1章から6章までの考察を踏まえて、ジャワ島都市の集合住宅計画に、都市居住地において継承され

ている地域固有の空間秩序を導入することの必要性と可能性について論じ、コミュニティ活動を内包できるジャワ型都市住宅の basic 概念について述べている。

論文審査の結果の要旨

本論文は、ジャワ島都市にみられる地域固有の空間秩序を反映した住宅計画の基礎を得ることを目指し、地域固有の居住地、公的な計画による戸建て住宅地、中層集合住宅団地を研究対象として取り上げ、住宅内および住宅集合空間における居住地の空間利用実態を個人生活とコミュニティ生活の両面から分析した知見をまとめたものである。得られた結果を要約すると以下の通りである。

- (1) ジャワの人々は対人感覚において内から外に向かう序列をもつことが民族学研究によって明らかにされており、この序列がジャワの伝統的な住宅プランに反映していることを明らかにしている。またこの対人感覚の序列性が、コミュニティ生活におけるプライバシーと共同性に配慮した生活空間の配列や秩序を構成するための基礎となる可能性のあることを示唆している。
 - (2) ジャワの都市住宅が、表から奥に向かって配列される 3 つの基本的な空間（前部の訪問者をもてなす空間、就寝および礼拝等個人的な活動に用いられる中間の空間、料理や物置のための人目につかない裏の空間）によって構成されることを明らかにし、この構造が伝統的住宅の内部空間と合致することを示している。また、他の個人的な生活活動は、共用の施設（通路・廊下、小礼拝所、共同便所等）においてなされる傾向にあることを明らかにしている。
 - (3) ジャワの都市住宅の位相的な空間配列構造の帰結として前室としての客室と後室である台所を核とする内部空間の二極化がもたらされ、これら二つの基本空間とこれに付加される寝室の数によってジャワ都市の住宅のタイプが示されることを示唆している。これは、日本の住宅において食事室および台所を基本空間としこれに付加される寝室数（つまり $n + DK$ ）によって基本的住宅タイプが示されることと明らかに異なっている。
 - (4) 前室である客室は、共同性をもった外部空間と一体的な機能を果たす一方で、住宅内部におけるプライバシー空間の分離ないし隔離の作用をもつことを明らかにしている。
 - (5) 住宅集合を構成するそれぞれの住宅において 3 つの基本空間の配列の可能性を確保し、さらにその前室と共同性をもった外部空間とを一体的に連結することによって、プライバシーとコミュニティ活動の共存を住環境の不可欠な条件とするジャワの人々の生活様式に適合した住宅計画が可能であることを示唆している。
- 以上のように、本論文は、ジャワ島都市の住宅の内部空間に一貫して見られる空間の 3 分割性の傾向および住宅の内外の空間の一体的なリンクエージの形成を住環境における地域固有の空間秩序として導き出し、これを住宅計画に導入することによって、ジャワ島都市の集合住宅地等の計画住宅地においてプライバシーとコミュニティ活動の共存を可能とする提案を行っており、環境工学の発展に寄与する所大である。よって本論文は博士論文として価値あるものと認める。